

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月13日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530554

研究課題名（和文） 非正規雇用労働をめぐる社会的格差の調査研究—若年世代のキャリア形成に着目して

研究課題名（英文） Survey research on social inequality of non-regular workers: Career formation of young generations

研究代表者

小林 盾 (KOBAYASHI JUN)

成蹊大学・文学部・准教授

研究者番号：90407601

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代社会における社会的格差を、量的社会調査を実施することで実証的に解明することを目的とした。そこで、東京都西東京市でランダムサンプリングに基づく郵送調査を実施した（有効回収数760人、有効回収率64.0%）。就職、転職、健康、食生活、恋愛、結婚といったライフスタイルの多様性に焦点をあてて、社会階層がどのように社会的格差を生み出すのかを検討した。分析の結果、家族、友人、同僚などのソーシャル・キャピタルが重要な役割を果たすことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This project aimed at investigating social inequality by conducting a survey. For this purpose, a mail survey was conducted in Nishitokyo city, Tokyo, based on random sampling (760 valid respondents, 64.0 % response rate). Special emphases were put on job searching, job change, health, food, romance, and marriage to specify effects of social stratification on social inequality. As a result of analyses, social capital played important role, such as family members, friends, and colleagues.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	300,000	90,000	390,000
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会学，社会階層，社会調査，非正規雇用，キャリア，格差，ライフスタイル，ソーシャル・キャピタル

## 1. 研究開始当初の背景

パート、アルバイト、派遣社員、契約社員などの非正規雇用労働者の比率は、これまで増え続けてきた。2007年には、役員を除く雇用者5520万人のうち33.7%となり、はじめて1/3を超えた。とくに若年世代で高く、15～24歳の男性で45.7%、女性で50.4%となっている。非正規雇用は、人びとに柔軟な働き

方を提供する一方で、労働条件がおおむね不安定でもある。

ところが、これまでの社会階層研究では、正規雇用労働者を前提として社会的不平等を分析してきた。そのため、正規雇用のホワイトカラー労働者とブルーカラー労働者を主な対立軸として、人びとの世代間移動や世代内移動が分析されてきた。

たしかにこうした分析視点は、正規雇用労働者が大多数を占めた時代には有効だったろう。しかし、現在のように非正規雇用が浸透すると、ともすればそれに伴う社会的不平等の拡大や固定化を、見逃してしまうかもしれない。収入などの「結果の」不平等が、今後はキャリア形成やライフコースにおける「機会の」不平等にまで、拡大していくおそれがある。さらに、趣味といったライフスタイルや幸福感にまで影響するかもしれない。

## 2. 研究の目的

こうした事態を正確に捉えるには、社会調査によって実証データを集める必要があるが、これまで十分ではなかった。そこで本研究では、正規・非正規雇用を社会的不平等の新しい対立軸として、量的調査を実施してデータ収集する。

そこから、21世紀日本社会における社会的不平等の現状だけでなく、原因と帰結を多角的に描きだすことをめざす。

## 3. 研究の方法

東京都西東京市において、ランダムサンプリングにもとづく郵送調査を実施した。

「2010年社会階層とライフスタイルについての西東京市民調査」であり、母集団は東京都西東京市在住男性で、計画標本1200人、有効回収数760人（有効回収率64.0%）であった。

地域と性別を限定することで、その中での差異を明確にさせた。調査票では、教育、職業、収入といった社会階層について、趣味や娯楽といったライフスタイルについて、結婚や出産といったライフコースについて、階層帰属意識や生活満足感といった社会意識について主に質問した。

すでに前年に「2009年社会階層とライフスタイルについての西東京市民調査」を実施し、プリテストの役割を果たした。その分析結果をふまえて、本調査ではとくにライフスタイルにおける差異を詳細に測定した。

## 4. 研究成果

(1) 非正規雇用と正規雇用の働き方について分析した。社会階層と社会移動全国調査（SSM調査）データを用いて、非正規雇用労働者ほど職場でフリーライダーとならず、むしろ積極的に貢献することが分かった。また、同僚がフリーライダーだと、自分もフリーライダーになりやすかった。職場のフリーライダー問題を非正規雇用労働者について明らかにしたのは、この研究がはじめてである。

(2) ライフスタイルのうち、とくに食生活が社会階層によってどう異なるのかを分析

した。2010年社会階層とライフスタイルについての西東京市民調査を用いて、文化威信スコアを参考にして、食料威信スコアと飲料威信スコアを開発した。そのうえで、教育が高いほど、威信の高い食生活を送っており、そのため健康度が高いことをしめした。この研究ではじめて、社会階層が食生活とどう関わっているかがランダムサンプリング調査によって解明された。

(3) ライフコースのうち結婚と恋愛の関係を、社会的不平等の視点から分析した。2010年社会階層とライフスタイルについての西東京市民調査を分析した結果、教育が低い人では結婚前の交際人数が多いほど結婚しやすく、教育が高い人は少ないほどしやすかった。恋愛から結婚への移行を、ランダムサンプリングに基づいて計量的に明らかにしたのはこの研究が最初である。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①小林盾、恋愛の壁、結婚の壁——ソーシャル・キャピタルの役割、『成蹊大学文学部紀要』47号、157-164ページ、2012年、査読無

②小林盾、ライフスタイルにおける社会的格差——食生活の外部化を事例として、『アジア太平洋研究』36号、235-242ページ、2011年、査読無

③小林盾、食生活の評価の構造——食料威信スコアと飲料威信スコアの測定をとおして、『成蹊大学文学部紀要』46号、125-136ページ、2011年、査読無

④小林盾、社会階層と食生活——健康への影響の分析、『理論と方法』25巻1号、81-93ページ、2011年、査読有

⑤小林盾、JGSS-2009 ライフコース調査にみる仕事への取りくみ——仕事量、アイデア提案、同僚サポートの分析、『日本版 General Social Surveys 研究論文集』10、251-260、2010年、査読無

⑥小林盾、社会学と社会調査教育——日本社会学会シンポジウムより、『社会と調査』4号、52-60ページ、2010年、査読無

⑦小林盾、組織活性化とネットワーク——フリーライダーへの同僚の影響、『成蹊大学文学部紀要』45号、59-74ページ、2010年、査読無

〔学会発表〕（計9件）

①小林盾、結婚における最適交際人数、数理社会学、2012年3月15日、鹿児島大学

②小林盾、食生活の評価の構造、日本社会学会、2011年9月18日、関西大学

- ③小林盾, 恋愛格差の実態と結婚への影響, 数理社会学会, 2011年9月6日, 信州大学
- ④小林盾, Love in Japan: A Survey, アメリカ社会学会, 2011年8月20日, ラスベガス
- ⑤小林盾, 食料威信スコアの測定と応用——食生活への社会階層の影響数理社会学会, 2011年3月7日, 沖縄国際大学
- ⑥小林盾, 海藻格差と健康格差, 日本社会学会, 2010年11月7日, 名古屋大学
- ⑦小林盾, フリーライダーとワークライフバランス——JGSS-2009 ライフコース調査の分析, 数理社会学会, 2010年9月11日, 獨協大学
- ⑧小林盾, 社会階層と海藻格差——文化資本としての食生活, 数理社会学会, 2010年3月8日, 立命館大学
- ⑨小林盾, 非正規雇用と成果主義はなにをもたらしたか——SSM 若年層調査の分析, 日本社会学会, 2009年10月11日, 立教大学

[図書] (計3件)

- ①金井雅之・小林盾・渡邊大輔編, 弘文堂, 『社会調査の応用——量的調査編, 社会調査士 E・G 科目対応』, 2012年, 158-248 ページ
- ②米村千代・数土直紀編, 勁草書房, 『社会学を問う——規範・理論・実証の緊張関係』, 2012年, 148-159 ページ (小林盾「食べ物に貴賤はあるか——社会規範と社会調査」)
- ③石田浩他編, 東京大学出版会, 『現代の階層社会 2 階層と移動の構造』, 2011年, 239-252 ページ (石田光規・小林盾「就職におけるネットワークの役割——戦略的資源かサポート資源か」)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://homepage2.nifty.com/jun-kobayashi/index.html>

## 6. 研究組織

研究代表者

小林 盾 (KOBAYASHI JUN)

成蹊大学・文学部・准教授

研究者番号: 90407601